歌川國政画
下
梅堂榮久著
川上鼠邊閲
中
勢州彫彩倶利伽羅三編大尾
亀遊堂近久梓
上

丸分肌彩俱利
伽羅三編大尾
上
亀遊堂近久梓

A514
7

抑此草紙い近年。東京の花と諸君も知る。名も葭町ゑ棄きー。
女侠客鐘吉の。履歴ゑ善事の多々れた。ゑを好ーて鼠邉氏が。
勢ひ肌と号と置き。合巻とるーたるゑ世君の高評を受ーより。
梓主い一層心喜て。此図を外さをサアこ編をと丁稚ゲ尻ゑ帆を
を抽て。記者ゑ責れど此程い。偶偶荒ゑ隙るーとを受込
ご侭捨置ゑ。亀遊堂い気をわらち。年賀の戻りゑ立寄
ま。僕ゑ後巻を綴せよと。望るくまくゑ斷ゲう。同様怪化
の戯多者社會。川上鼠邉氏が著述残ーを夜仕事の片ら。
一す一筆助手舞テン。病気林爺ゑ譲らまさ。獅子ッ鼻をヒコ
ツカセ。萬歳樂とポンくと序も

巳ゑる歳
な注春

夜宴坊國政戯題

48-8300

梅園田三郎
後白梅の国三

常磐津文字重

幸きゝ必らず味ひ
なり甘きよ
果して毒
いつとなく去れば
児雷也の種去へ
驚く人々と尻
眼よりけむり
を煙草入物を
こそ打笑ふ〳〵ヨイ陽さんそんな所作
とゝあのお茶方を坐るものゝ子児雷
也の種去ゲ目形は一寸魚ゝ
次をとゝお器とゝ人形 フジ

▲ 桜ひのなると関あり
輝る新向の出来
庵丁七全
貝のたげぬ
ゲ身上こい
春先の
うど不便
積る雪い
奥でゆつり

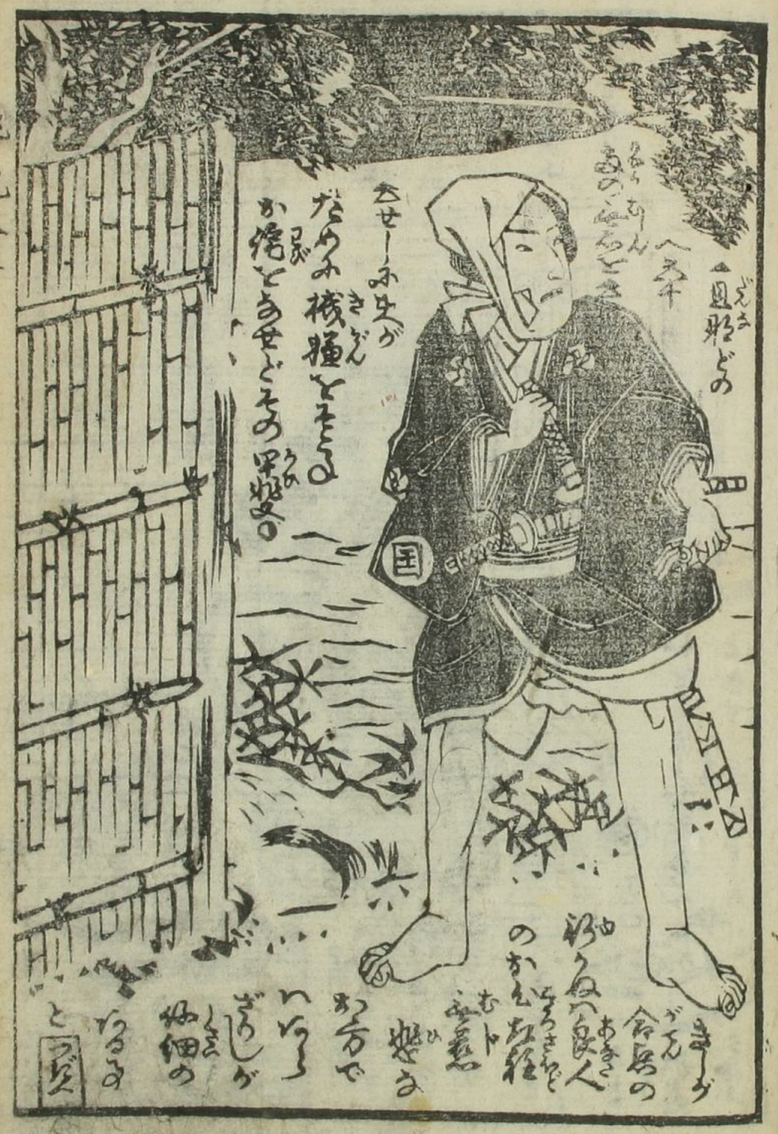
つぎ
奥の薄みと
あみ主人い
主出ゆ
て「婦みよ
暫らく主
ざりに今日

△「アモシ
奥でゆくも

▲ 奉ひ
海つ元の△
奥でも海で私ちの
関ゆいきいると「見サ恋い
岩ゆいせぬ程よ私の主と
関ぐらいと、
ゆるよ入り渦者みと主
主「ヨイ鐘ちゆん赤
ゆも似ね今日の出主
海元伝細のあるゆと
ちつさ格みを
理ゆみ主へ
連て来しも
ゆ主の奥の つぎへ

是より以下ハ
鐘吉が川清
への譚うと見
給へ〇

つぎ
永代橋をくぐり
水寿ろく孔雀を
そなえと云ふ
年ぎ若い女中仲間で
なるべんと連座を客
あを頂べい方の
稚妻おちるさん
とろ云ふ
ろの
関意とみ解



国
だらみ機嫌をそこ
お俺とあせどその果物
の合居の
のかんかん
ゆ方で
いけ
ざし
細の
るよ

人足相帳
萬覚帳
鉄

国

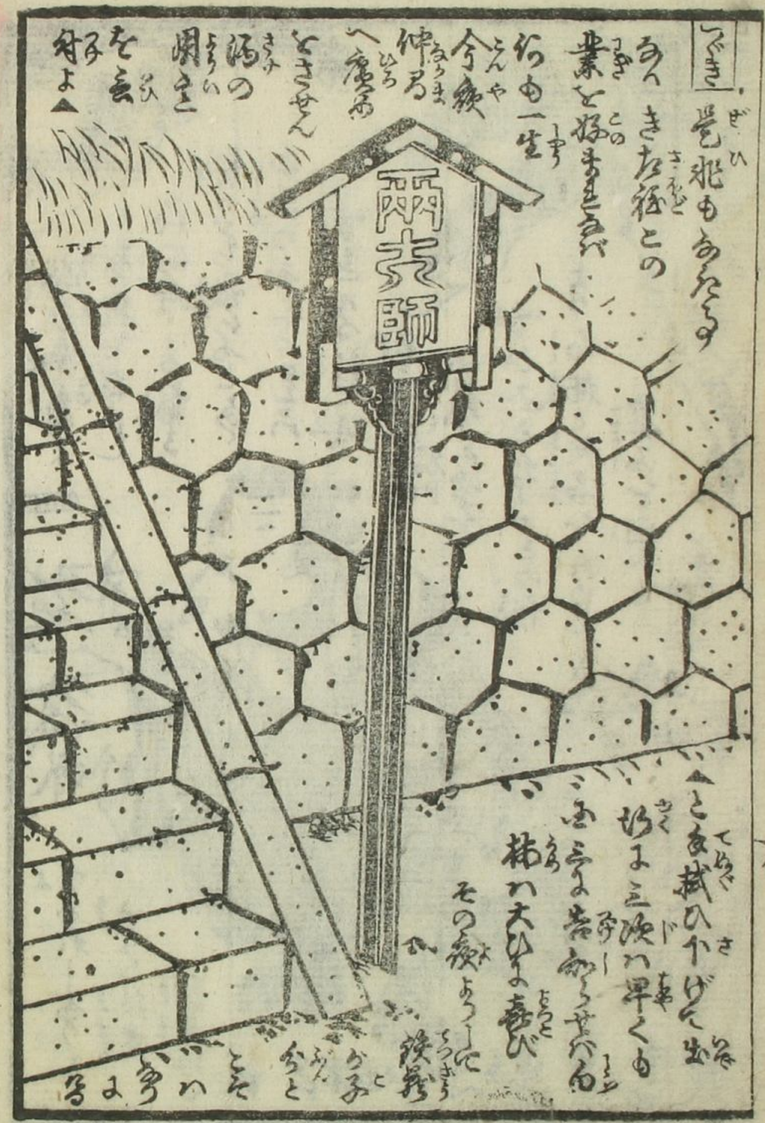
白梅の国三上野事坂ろそ不計兄正一郎又逢ハ密談とそ事巻中ろそものづくしとる

ぢき ろそとーそ
やちん
とん
ろく
ろく
いろくあぢしハ
かくもひ
しぶ
性笑き武家と

正

梅の

国



明治十三年四月十九日御届

編輯　川上謂一郎
　　事務所　浅草区元町廿五番地

出版人　澤久次郎
　　日本橋区亀井町廿六番地

010190517581

梅堂榮久著
川上鼠邉閲
中

A51K
8

<98-8301>

つぎ せぶーと
張ひぢ陸
此方とさー
て寄るさるふ
ゐゐくーと
ぬこへつぎ
とさた
ある宿軍
へ突あり
接拶もおさた
ゆきるを宿軍
いまび歩「ゆ

▲角蛋中のひとの慶た
性根を西る屋の
あたちふ
ゆたれとさー

●せぶ 犬武家
紀とも不
法とも
れ去とゆり
あた奴あとも
や附
ゆるよ
ゐのび

▲ゆ接あたぐーと
鼻まけび出こへうち
笑の「見いまうう

その上あーを一云

ゆ武家さ名
ゆたうーい
互ひの廉忍
羅いなて我
のこあらぎ又
不法とかゆ
武士い法を
中と沙歩とい
去来よりの接て
あーぎやそを
ゆぎや絡ぎ一の
光りとあうう

次へ

つゞき
曩より掛
種ねへ姿の面
洋風腰の
白刃と
たゝろ
あて紙
い形の
私ちゆ家
海の海ぬの
出わらでへ
最おとたー
ゝみ武士ゝ
▲切くさ
寄よ故名ア
社会せ者と
芸尺云衆
よ官軍い
悪くき
ア命の
雑云ゝ
知てハ利
持ち
ゞしゝん
ねんせよ

あひて
会ひよあつても
面白へゞ云るみも
たゝつぬひちろく
武士そんゝ奴名を
会ひよ土ゝとの
白林のか
尾いさんが
豪ちさか
敷ゲ上ゝ
ゝ今日の気へ
ゆゝてゆる愛ゝと
楽へゝと後ゝの方へ▲
と云
さゝみ
ゝ人
切しく
接速て
ゝを
見ゝ

つゞき 切られ
べとゝ
ゝ
ゝ

国

鉄

▲うへ郡うつぐみー今つゐ
えうたゝなよりかりむも九郎
の場合あり若とどやぐそ
みゆり赤さうん時若と
伝四と云のこありおへをい
よが九郎と
つゞく

つゞき
後鳥羽の元
よりおへをの
敗るゝ大方あるぞ
此方やうとの
豪ト者
まさ神仏人
うぐひとるる
修験者我
牧とそも命

▲幕士の
二十九人
一人の

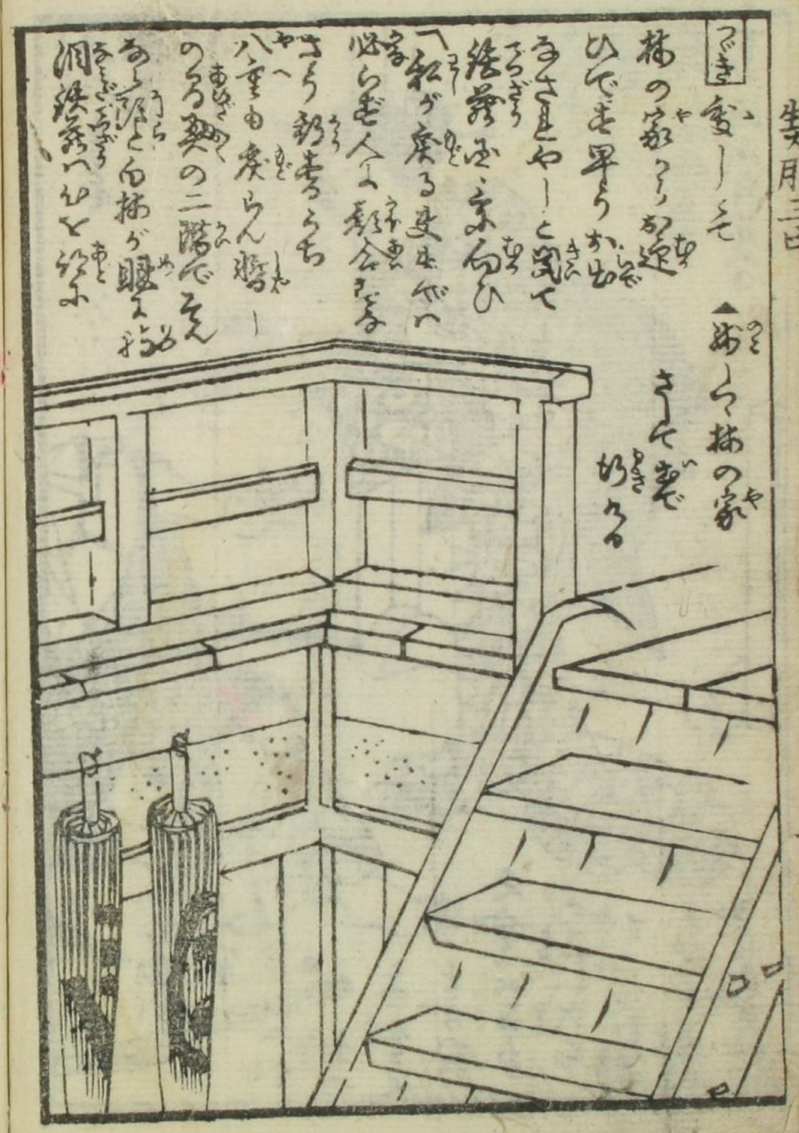
国

つゞき
官軍
とあや
正

国

つゞき

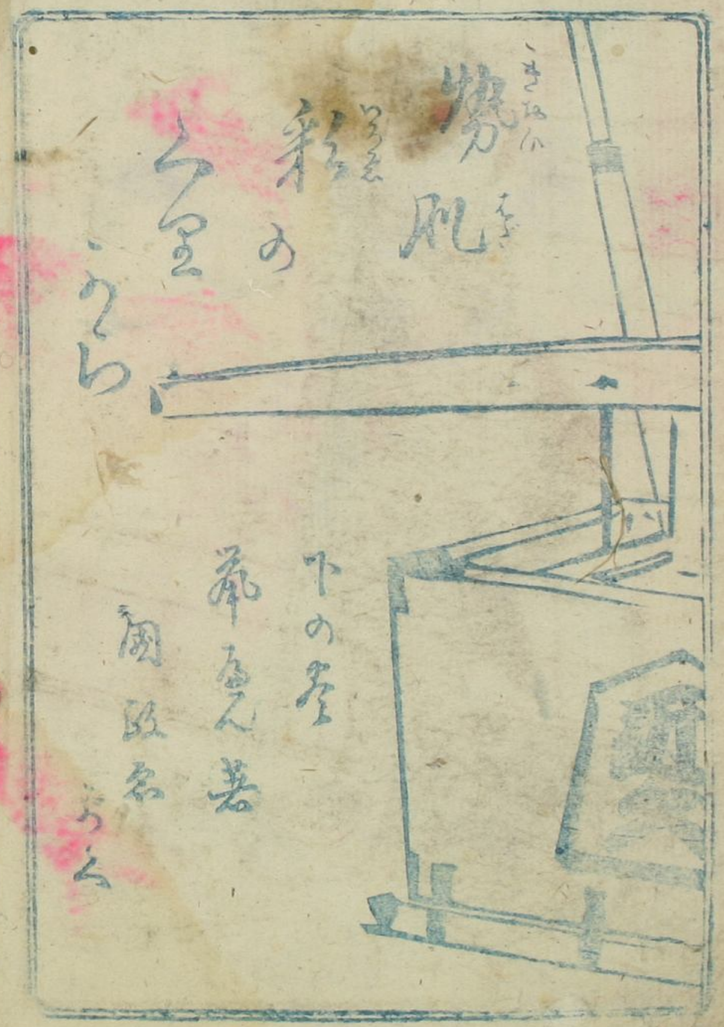
▲あらく梯の家



010190517590

歌川國政画
下

A516
9上
010190517603



<98-8302>

つゞき
幕府
清川

鐘

鐘

春

南